



授業構想シート
授業構想チェックシート
Rシート

【教材は?】 【教材名: 名探偵になろう】

【仕組み】 ・物語文を読み取り、問いに答えることで、見習いから名探偵にレベルアップしていく

【全 8 時間をどう使う?(題材計画)】

知 技	【一次】1時間 教材の仕組みを知り、物語文を読み取り、問いに答えることに課題や意欲をもつ	【二次】4時間 物語文の前半部分を読み、 A:人物の行動と出来事とのつながりの理解→人物の様子の変化と出来事 O:人物の行動と出来事→人物の様子の変化と出来事→人物の心情の変化と出来事とのつながりの理解	【三次】3時間
	【三次】3時間 物語文の全体を読み、 A:人物の行動と出来事→人物の様子の変化と出来事 O:人物の行動と出来事→人物の様子の変化と出来事→人物の心情の変化と出来事とのつながりについて、自分の考えを説明する ※文や文章の指さしなどから、徐々に自分の言葉で説明するように	A・O 二次で取り組んだ全ての指導内容について、物語文を読み、自分の考えを説明する	
思 判 表	<input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えた理由の部分の物語文にマーカーで線を引いたり、自分の考えをワークシートに記入したりする <input checked="" type="checkbox"/> 自分から物語文を読んだり、物語文の続きを想像したりする <input checked="" type="checkbox"/> 問いに対する答えを選んだ理由をワークシートに沿って説明しようしたり、自分の言葉で伝えようしたりする <input checked="" type="checkbox"/> 物語文を読み、問いに対する答えを出来事とのつながりや場面同士のつながりから説明しようとする <input checked="" type="checkbox"/> 友だちの考えや理由を聞いて、自分の考えを振り返ったり、自分の考えの理由を出来事とのつながりで説明したりする		
主 体 的 な 姿			

実施時期 **令和 4年 9月** 学部 **中学部**
教科 **国語** グループ **B** 指導領域 **読むこと**

実態 実態について

- 個別の教育支援計画を確認(その子どもに必要なこと?) 個別の指導計画で領域を確認
- 知識を段階化した一覧を実態表として使用し、実態を把握
- 「できない」ことは問題でなく、つまずきの原因が重要
 - (1) この題材で達成が可能? 【可能性】
 - (2) 現在の生活で必要は? 【必要性】
 - (3) 将来の豊かな生活につながる価値は? 【価値性】

Aの実態

- 【知識及び技能】
 - 結果(人物の様子)とその理由(出来事)との結びつきが理解できないことがある
 - 主語や述語、順序を表す言葉から、物語の大まかな様子を読み取ることができる
- 【思考力・判断力・表現力等】
 - 物語文の一つの場面を読み、人物の行動や人物の様子、心情の変化の理由となる出来事について、考えた出来事となぜそのように考えたかを問われると、「なんとなく」、「(文中に)書いていないからわからない」などと答えることが多い
- 【学びに向かう力・人間性等】
 - 仕方がわかると、自分から取り組むことができる
 - 友だちの様子を見て、同じようにしようとする

Oの実態

- 【知識及び技能】
 - 結果(人物の様子)とその理由(出来事)との結びつきが理解できないことがある
 - 挿絵と結びつけて物語の大まかな様子を読み取ることができる
- 【思考力・判断力・表現力等】
 - 物語文の一つの場面を読み、人物の行動や人物の様子、理由となる出来事について問われると、「なんでかな」などと言う
 - 物語文の一つの場面を読み、人物の行動の理由を尋ねられると、「きっと~なんじゃないかなと思った」などと自分の言葉で説明しようとする
- 【学びに向かう力・人間性等】
 - 教師に「OOでいいのかな?」などと確認しながら、繰り返し取り組むと、一人で取り組むことができるようになる
 - 教師の言葉を聞いて、友だちの姿に注目することができる

【学習指導要領の扱う段階の目標と内容】

中学部I段階 C 読むこと
【知識及び技能】 イ(ア)事柄の順序など、情報と情報の関係について理解すること。
【思考力・判断力・表現力等】 ア 簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。
【学びに向かう力・人間性等】 ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝えたりしようとする態度を養う。

【どうなってほしいかを三つの柱で整理】

【何を学ぶ?(知識)】 情報と情報とのつながりの理解 O:出来事とそれに伴う人物の行動や様子とのつながり ※Aは下線部+人物の心情の変化	【Oと判断できる発言や姿】 O:人物の行動や人物の様子の変化の理由に当たる文章を指さしたり、そのつながりを説明したりする ※Aは下線部+人物の心情の変化	【大まかにどう段階化する?(詳細は題材計画で)】 物語文の一つの場面や段落を読んで… 人物の行動の理由となる出来事を選び、理由を説明する ↓ 人物の様子の変化の理由となる出来事を選び、理由を説明する ↓ A:人物の心情の変化の理由となる出来事を選び、理由を説明する ※理由の説明時の支援は段階的に減らしていく
【どう学ぶ?(活動)】 『名探偵になろう!』 物語文を読んで、人物の行動や様子の変化とその理由となる出来事を答える活動を設定する ※Aは下線部+人物の心情の変化	【Oと判断できる発言や姿】 人物の行動や様子の変化を答え、その理由となる出来事を説明する ※Aは下線部+人物の心情の変化	【大まかにどう段階化する?(詳細は題材計画で)】 物語文の全体を読んで… 人物の行動とつながる出来事を選び、理由を説明する ↓ 人物の様子(の変化)とつながる出来事を選び、理由を説明する ↓ A:人物の心情の変化とつながる出来事を選び、理由を説明する

【望む姿勢や姿は?】 ・自分の考えた理由の部分の物語文にマーカーで線を引いたり、自分の考えをワークシートに記入したりして、自分の言葉で説明しようとする ・自分から物語文を読み進め、人物の行動、人物の様子や心情の変化を考えたりする ・問いに対する答えを出来事とのつながりや場面同士のつながりから説明しようとする ・友だちの考えを聞いて、自分の考えを振り返ったり、自分の考えを説明したりする	【どう引き出す?】 ・拡大した物語文を提示し、友だち同士で自分の考えを伝え合うよう活動を設定する ・物語文を具体的に読みとれていることを認めるとともに、そのよさを伝える
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

【めあて達成のための工夫は?(場面設定・教具・働きかけなど)】

【工夫点】 ○物語文 (個人用・黒板掲示用) 	【意図(ポイント)】 ・物語文から多面的に想像したり、友だち同士で考えを伝え合ったりすることができるように、登場人物の行動、様子や心情の変化とつながりのある出来事を2つ以上含む文章にする ・自分や友だちの考えが視覚的にわかるように、黒板掲示用に、それぞれの色で線を引いて使用する	【工夫点】 ○友だちと考えを伝え合う場面 	【意図(ポイント)】 ・友だちの考えに触れて物語文を読む視点が広がるように、登場人物の行動、様子や心情の変化の理由と考えた出来事を伝え合う場面を設定する
○挿絵 	・物語文をイメージしやすくするために、物語文について問いかけながら、黒板掲示用の物語文に添付する	○気持ちシート 	・自分の経験と気持ちを結びつけて人物の心情の変化を読み取るができるように、気持ちを表す言葉の一览に、生徒から聞き取った経験を下部に記入して使用する。気持ちを表すイラストは物語文の挿絵にも使用する

【1時間をどう展開する?】

学習活動 1. めあてと学習する内容を確かめる 2. 『探偵修行』で、物語文の前半を読んで、出来事とのつながりを考える 3. 『名探偵になろう』で、物語文全体を読み、出来事とのつながりを考え、説明する 4. 本時の内容を振り返り、次時への意欲をもつ	意図と働きかけ(主発問・みとめ・タイミングなど) ○前時を振り返り、本時のめあてを意識できるように、前時の物語文について考えたことを問いかける ○自分の考えをまとめ、自分の言葉で説明することができるように、考えに対する理由を問いかけたり、ワークシートに記入したりすることを伝える ○自分の考えや友だちの考えがわかるように、黒板掲示用の物語文に、それぞれの色で線を引いたり、考えを記入したりすることを伝える ○多面的な視点で物語文を読むことができるように、友だちや教師と考えたことを伝え合うことを知らせる	【板書・配置・教具など】 ・物語文(個人用・掲示用) ・ワークシート ・挿絵 ・気持ちシート ・マーカー
	○本時の活動を振り返り、次時への意欲をもつことや様々な視点で想像することができるように、それぞれの選んだ出来事が異なってもつながりから考えることができることを認める	【改善】 ワークシート:話し合う中で考えを伝え合う活動を重要視し、ワークシートへのまとめ方は、教師が支援するようにした

【評価】

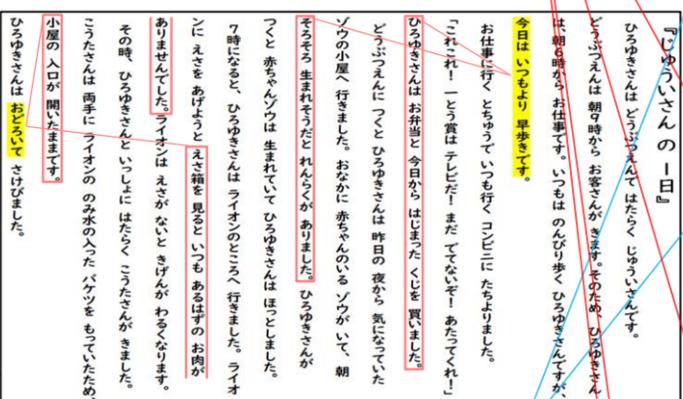
開始時の姿(実態・課題) 物語文を読み、行動や様子・心情の変化の理由となる出来事を答えることができない	指導・支援 ・自身の経験とつなげられるような言葉をかける ・行動や様子・心情の変化と出来事とのつながりを意味づける	結果 A:「~だから●●したと思います」と、行動や様子・心情の変化とのつながりに対する理由を説明することができた O:自分の経験も含め、行動と出来事とのつながりに対する理由を説明することができた
---------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

実践のポイント

《物語文の内容の検討》

生徒が主体的に取り組むことができるように…

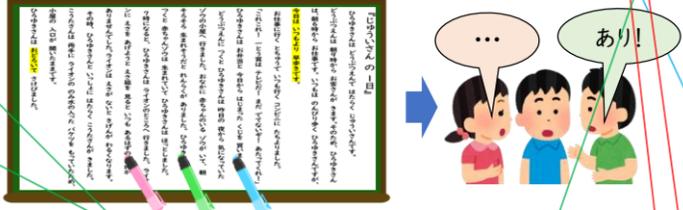
- ・“正解を見つける”ではなく、“物語文を読むことを楽しみ、それぞれの感性に応じた考えをもつ”ことができるように、行動や様子、心情の変化の原因となりうる出来事を2つ以上含む物語文を設定
- ・物語文の続きへの期待をもちながら学習を進めることができるように、1時間に一つの物語文を扱うようにした



《対話的な場面の設定》

友だち同士で考えを深めることができるように…

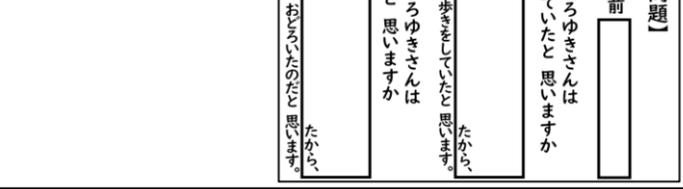
- ・黒板に掲示した物語文に、行動や様子、心情の変化の理由と考える出来事に、それぞれの色のマーカーで線を引いたり、教師が考えを整理して記入したりした後に、それぞれの考えを伝え合う活動を設定
- ・友だちの考えを聞いて、自分と異なる考え方の面白さがわかるように、行動や様子、心情の変化と出来事につながりがある時は、「(つながり)あり!」と合言葉を言って、お互いの考えを認め合う



《ワークシートの活用と改善》

自分の考えたことを表現することができるように…

- ・話し合い活動の時に、自分の考えを説明することができるように、ワークシートを作成
- ・ワークシート記入時に、教師が理由を問いかけて、考えを整理するように改善
- ・理由の説明の仕方がわかるように、「～だから、●●した」などの言葉をワークシートに記載



働きかけについて (HOW TO)

- ☑自ら考え、判断して行動する手助けをするためのもの
- ☑活動「開始時」「途中」「つまずき」「終了時」を想定
- ☑誘い、示範例示、助言、説明、問いかけ、盛り上げ、賞賛、励まし、認め、意味づけなどを行う
- ☑子どもに合わせた伝わりやすいことばや提示
- ☑抑揚や身振り、表情、子どもの好きなものなど工夫
- ☑つまずきに対して答えでなく段階的な働きかけ
- ☑課題遂行につながる効果的なことばかけ
- ☑何がよかったかわかるよう即時評価
- ☑よさや価値を伝えられる認め
- ☑働きかけを段階的に減らしていく工夫

題材目標について

- ☑それぞれの子どもの目標を個別化する
- ☑授業の評価・改善ができるよう、題材の最後の姿(到達像)の具体化する
- ☑身につけたいことを焦点化する
- ☑前単元や題材、または、日常生活で意欲的に取り組めた工夫を活用
 - 例:教材の仕組み、学習環境の工夫など

教材について

- ☑子どもに身につけてほしい知識及び技能、生活に生かせるような思考力・判断力・表現力をその教材で習得・育成できる?
- ☑必要性を感じ、課題をもてる?
- ☑主体的・対話的な活動は取り入れられる?
- ☑絵、写真、ビデオなど具体物を使用するなどの工夫ができる?
- ☐子どもが自分でルールを決めたり、役割を設定したりできる?
- ☑子どもにとっての強化子はある?

題材計画について

- ☑つまずきの原因分析から、できること・わかることが段階化されている?
- ☑子どもの学び取りの傾向から課題の引き受けや実施方法が検討・工夫されている?
- ☑全体の計画と個別の計画がわかるようになっている?
- 【一次】
 - ☑仕組みを理解したり、楽しさを感じたりできる?
 - ☑活動の意味やよさが十分理解できる?
- 【二次】
 - ☑二次は確実な知識の習得
 - ☑子どもに到達してほしい頭の使い方がぶれていない?
 - ☑負荷がかかりすぎていない?
 - ☑支援が減る、問題の難易度が高まるなどしている?
 - ☑友だちと一緒に学ぶ場が計画されている?
 - ☑自分で考えた仕方や解決方法を生かせる仕組み?
- 【三次】
 - ☑できるようになったことを生かす場は設定されている?

学習環境について

- ☑活動の流れや量、しやすさを考えた道具材料の配置?
- ☑不要な刺激は排除している?
- ☑仕方や手順がわかりやすく伝えられる?
- ☑成果が見てわかる?
- ☑自分で仕方や手順を確かめられる?
- ☑教具は、思考(わかる)を補助できる?
- ☑教具は一人で使えるようになる?
- ☑期待感(してみたい!)をもてる?

学習活動について

- ☑導入は課題理解、興味関心
- ☑展開は知識習得のため、教具の理解や操作が適切?
- ☑発展は定着、応用、工夫できる?
- ☑終末は自己評価と次時への意欲
- ☑目的や意味、よさがわかる?
- ☑何をどのくらいどのようにするかわかる?
- ☑課題は段階的に高まっている?
- ☑間違いに気づいてやり直せる仕組み?
- ☑学習の結果と目的がつながって達成感がもてる?

評価について

- ☑めあてと指導はつながってる?
- ☑文章・文法はわかりやすい?伝わる?
- ☑不適切な表現はない?(難しい、できないなど)

① 9/5 欠:なし

【うまくいかなかったこと】

- ・一人ではワークシートに自分の考えを記入することができなかった

【うまくいったこと】

- ・物語文の行動の理由だと考える部分にそれぞれの色のマーカーで自分から線を引く姿が見られた
- ・物語文の、友だちが線を引いた部分を見て、「(自分の考えと)同じだ」や「何でかな」など言う姿が見られた

【気づいたこと】

- ・自分の考えを整理して、ワークシートに記入できるように、教師が問いかけて、考えを整理する

主・対で深い学びの実現に向けた改善

- ・話し合い活動時に、より活発な意見交換をして、互いの考えを認め合うために、相手の意見に対して、(考え)「あり」「なし」などの、決まった言葉を返すようにする
- ・行動の理由と考える出来事や選んだ理由を整理することができるように、ワークシート記入時には、教師が考えを聞き取って整理する

② 9/7 欠:D

【うまくいかなかったこと】

O:物語文から行動の理由と考える出来事について、友だちと考えが違う時に、「どっちが正解?」と言い、1つの正解を探そうとする姿が見られた

【うまくいったこと】

A:教師が“スキップ”などの知らない語彙を確認することや、自分ならどの場面でその行動をするかを問いかけると、行動の理由となる出来事を考えることができた

- ・黒板に掲示した物語文にマーカーで線を引くことに併せて、教師が発言を整理して記入することで、「〇〇さんと同じ(考え)」などの発言があった

【気づいたこと】

- ・物語文の場面の様子を表す語彙や自分ならどのような時にその行動をするかを確認してから、行動、様子の変化の理由となる出来事を問うようにする方がつながりを想像しやすい
- ・教師の動きや問いかけで場面を想像できていたが、挿絵を用意し、物語文を読む時に活用することで、理解を深めることができるようにしたい

主・対で深い学びの実現に向けた改善

- ・話し合いの時に発表しやすくするように、ワークシート記入時に、教師が発言を整理することに併せて、「～だから」などの文言は入れておく
- ・生徒それぞれの考えについて、物語文を読み、出来事とのつながりから考えることができればよいことを認めることで、自信をもって意欲的に考えを伝えることができるようにする

③ 9/14 欠:D

【うまくいかなかったこと】

A・O:出来事の原因を物語文から選ぶことはできたが、行動と出来事とのつながりを想像することができていなかった

- ・展開場面に時間がかかり、発展場面に時間が取れなかった

【気づいたこと】

- ・行動と出来事とのつながりを考えやすいように、自分の経験と結びつきやすい行動、様子の変化などから取り扱う

主・対で深い学びの実現に向けた改善

- ・物語文の内容の難易度や物語文の文量の検討
- おおよその内容を読みとりやすいものや、自分の経験からつながりを考えやすいものから徐々に考える範囲を広げていく

④ 9/15 欠:なし

【うまくいかなかったこと】

- ・A:問いの意味(問われている行動の主語)を理解できていなかった
- ・O:理由となる出来事を物語文から選ぶことはできたが、様子の変化と出来事とのつながりを考えることができていなかった

【気づいたこと】

- ・物語文の段落それぞれの内容を理解できるように整理する必要がある

主・対で深い学びの実現に向けた改善

- ・教師が場面を整理し、問いかけることで、行動や様子の理由となる出来事に目が向くようにする

⑤ 9/16 欠:D

【うまくいかなかったこと】

【うまくいったこと】

- ・挿絵を用いることで、「(釣り竿が)壊れた」などの状況が想像できていた

A:“うるうるした目→悲しい”と様子から心情の変化を考えることができていた

【気づいたこと】

- ・教師が挿絵で場面を整理することで、想像につながる

主・対で深い学びの実現に向けた改善

⑥ 9/21 欠:なし

【うまくいかなかったこと】

- ・問いとなる登場人物の行動や様子を表す文章の前後に理由となる出来事がある場合は、前にある文章しか意見が出なかった

【気づいたこと】

- ・いくつかの気持ちを表す言葉とどの場面でその気持ちになるかを問いかけたり、板書して気持ちを表す言葉をまとめたりすると、出来事と心情を結びつけて考えることができたため、気持ちを表す言葉を一覧にした気持ちシートを作成する

主・対で深い学びの実現に向けた改善

- ・生徒から出なかった選択肢(理由となる出来事)を教師の意見として取り上げることで、様々な視点で考えることができるようにする

⑦ 9/26 欠:D

【うまくいかなかったこと】

A:登場人物が5人になると、場面の内容を読み取れないことがあった

【うまくいったこと】

A・O:友だちの考えを聞いて、「それもあるなあ」など、認め合う姿が見られた

O:積極的に自分の考えを伝える姿が徐々に見られている

【気づいたこと】

- ・物語文の内容を理解し、行動、様子や心情の変化について考えることができるように、登場人物の人数を4人までに減らすまたは、登場人物が多い場合は、最初に登場人物について確認する

主・対で深い学びの実現に向けた改善

⑧ 9/28 欠:D

【うまくいかなかったこと】

【うまくいったこと】

A:物語文から、想像を膨らませて話す姿が見られた

【気づいたこと】

主・対で深い学びの実現に向けた改善